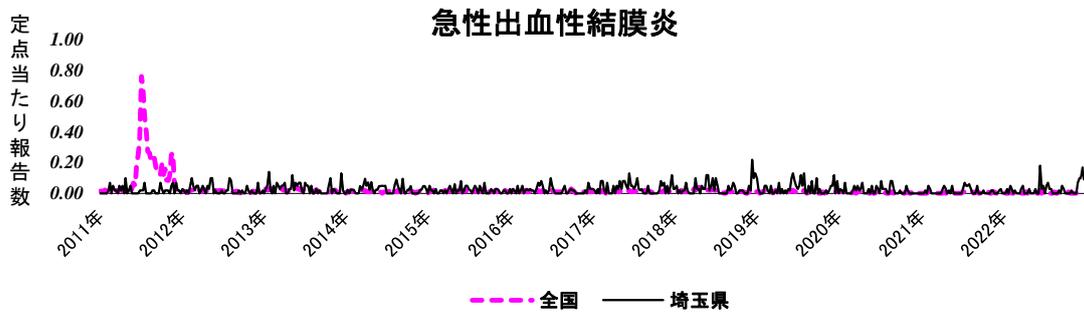


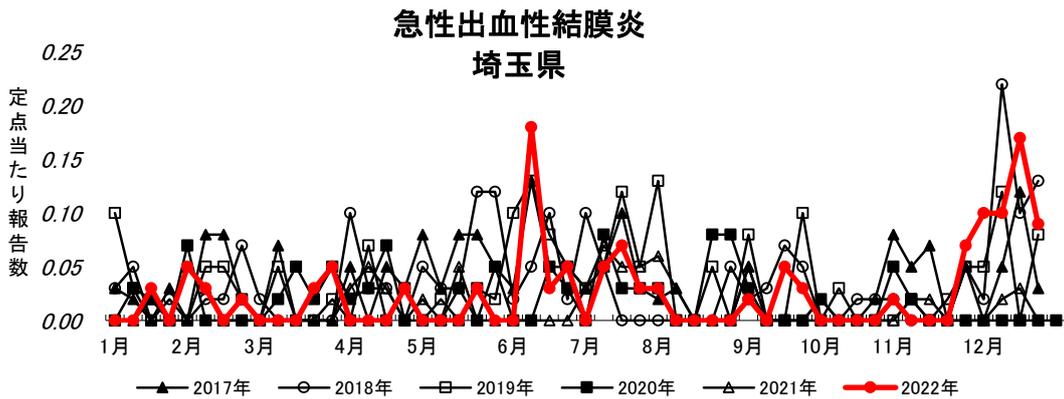
4 眼科定点把握対象疾患の動向

1) 急性出血性結膜炎

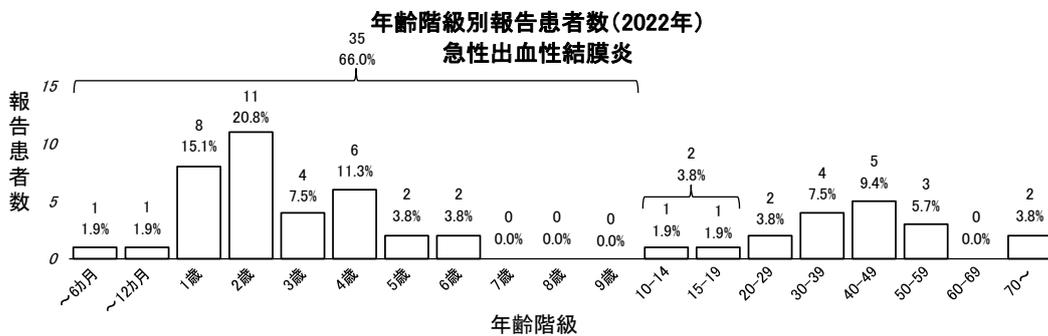
2022年第1週～52週の累積報告患者数は53人であった。定点当たり報告患者総数1.36は前年と比べ増加した。報告は年間を通して断続的に観察された。定点当たり報告数の最大値は、第24週(6/13～19)の0.18であった。年齢階級別では、2歳、1歳、4歳の順に多く、1歳～4歳が全体の54.7%を占めた。



図Ⅱ-12-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：急性出血性結膜炎）



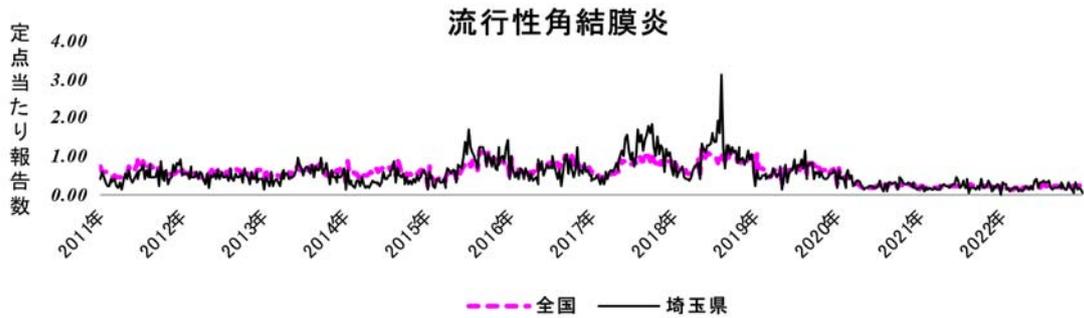
図Ⅱ-12-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：急性出血性結膜炎）



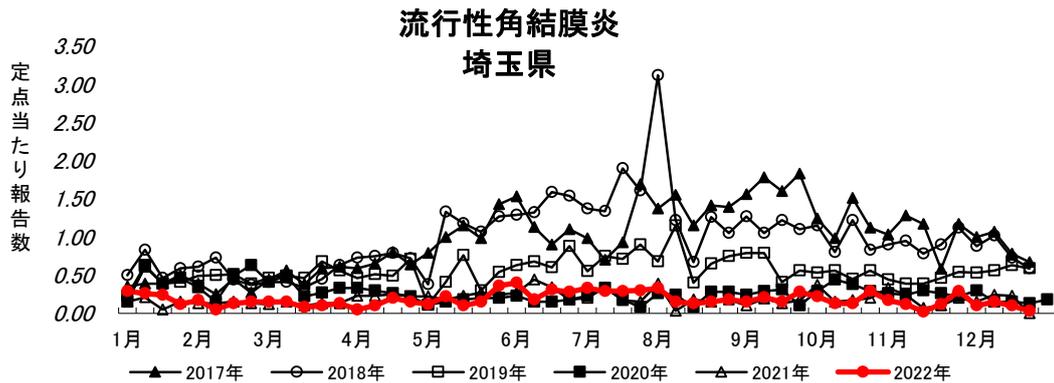
図Ⅱ-12-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：急性出血性結膜炎）

2) 流行性角結膜炎

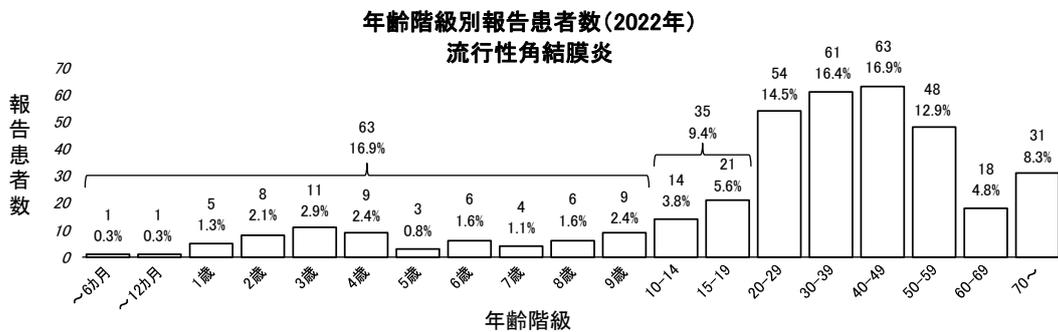
2022年第1週～52週の累積報告患者数は373人であった。定点当たり報告患者総数9.56は前年と同水準であった。定点当たり報告数の最大値は第23週(6/6～12)の0.40で、定点当たり報告数は年間を通して大きな変動は観察されなかった。年齢階級別では、全ての階級で報告があり、10歳未満では3歳、4歳及び9歳の順に多く、20歳以上では40歳代、30歳代の順に多かった。



図Ⅱ-13-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：流行性角結膜炎）



図Ⅱ-13-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：流行性角結膜炎）



図Ⅱ-13-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：流行性角結膜炎）